

母と子のにわ

—利用者みなさまと大阪母子医療センターをつなぐ—



vol.58
2024年
6月

「救急・総合診療科」新設のお知らせ

当センターは、妊婦さんと赤ちゃんを守る周産期部門と子どもたちを守る小児部門において専門的な医療を提供してきました。2018年には「小児救命救急センター」の指定を受け、重症の子どもたちの救急医療にも取り組んでいます。

そのような経緯のなか、近年は複数の疾患をお持ちのお子さんも増え、急な体調変化で夜間や休日に緊急の対応が必要になることも増えています。しかしながら、高度に専門化された診療科の枠組みでは、迅速に対応することや複数の疾患に同時に対応することが難しくなっています。

また、大阪府泉州地域の小児救急は地域の7病院による交代制で維持されてきましたが、病院の小児科医師減少などにより救急体制の維持が年々困難となってきました。このため、当センターは2022年より泉州地域の小児救急輪番制に参加しており、専門的な疾患に加えて、幅広く子どもの救急疾患に対応する診療科の必要性が高まっていました。

これらを受けて、地域の小児救急医療体制維持のため、また各専門診療科の垣根を超えた医療を担う目的で「救急・総合診療科」が新設されました。

「救急・総合診療科」では、肺炎や胃腸炎など子どもに多い感染症、けいれんやアレルギーなどの救急疾患に幅広く対応するとともに、近年問題となりつつある受け入れ先病院が見つからない救急車の受け入れや、地域の病院で対応が難しい症状の重いお子さんにも対応しています。また、病気がはっきりしないなどで診療科が分からない場合に一旦診察をさせて頂き、必要に応じて各専門診療科へつなぐ「窓口」の役割も担っています。

2023年度は救急輪番制において救急車208台を受け入れ、初期救急広域センターからの入院依頼や直接の受診などを含め年間550名の救急患者さんを受け入れてきました。

現時点では、患者さんから直接の受診は受けられていませんが、かかりつけのクリニックや地域の病院からの受け入れは常時行っていますので、担当の医師を通してご相談頂ければ幸いです。また、将来は診療体制を充実させ、軽症から重症まであらゆる状態のお子さんに対応できることを目指して、各診療科とともに子どもたちの笑顔を増やすことができると考えていますのでよろしくお願い致します。

(救急・総合診療科 石川 達也、五嶋 嶺、篠智 武志)



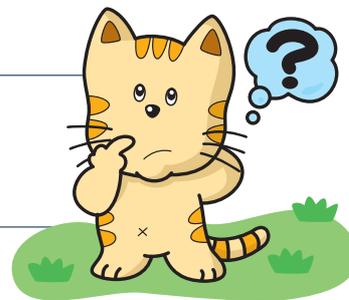
会計待ち状況を Sma-pa (スマパ) で ご確認いただけます

待合番号を選択
→「会計」待合番号を選択
→順番が確認できます

病院外来アプリ
スマパ(Sma-pa)



斜視と内反症



子どもの眼疾患で最も多い斜視しゃしと内反症ないはんしょうについて説明します。

斜視について

斜視とは、右眼と左眼の視線が違う場所に向かっていて、眼の位置によって内斜視・外斜視・上下斜視に分けられます（図1）。子どもの約2%程度にみられるとされています。

図1 いろいろなタイプの斜視



斜視の原因として、内斜視や外斜視では中枢の眼位・眼球運動を司る部位の機能異常と考えられています。内斜視では遠視が原因となっている（調節性内斜視）こともあり、その場合には眼鏡を装着すれば斜視は改善します。その他には眼を動かす筋肉やそれを動かす筋肉に異常がある場合にも斜視となります。

斜視の問題点としては、大きく分けて3つあります。1つ目は視力の問題です。斜視の状態では片眼ばかり使っていると、もう片眼の視力が育たない弱視（斜視弱視）という状態になります。2つ目は両眼視の問題です。両眼を使って物を見ることにより物を立体的に見たり距離感を測ったりしますが、斜視の場合はそれが難しくなります。3つ目は見た目の問題です。斜視の見た目が目立つ場合には子どものコンプレックスになる場合もあります。

斜視の治療はその種類によって異なります。遠視が原因となっている調節性内斜視では眼鏡を装着しますが、それ以外では手術を行うことが多いです。手術では眼を動かす筋肉を移動させることによって眼の位置を調節します。

斜視手術の時期に関しても斜視の種類によって異なります。子どもで最も多い間欠性外斜視では比較的両眼視が育ちやすいため医学的には手術は急ぎません。しかし、子どもは6歳前後で見た目を気にするようになるというデータもありますので、小学校に上がる前というのは手術を行うのに良いタイミングとなります。内斜視では両眼視を得るためにはできるだけ早く眼位を矯正する必要がありますが、あまり小さいうちに手術を行うと検査が不正確で再手術のリスクが高くなるため、いつ手術を行うかは難しい問題となります。当院では2歳頃に手術を行うことが多いです。

内反症について

内反症しょうもうとは、まぶたの皮膚が多いことによって、睫毛が内向きに押しされて角膜（黒目）や結膜（白目）に接触している状態です（図2）。新生児期には2人に1人程度見られます。

新生児期には睫毛自体が細く、当たっていても眼の表面に傷がついたりすることはあまりありません。しかし、4、5歳くらいになると睫毛が太くなり、眼の表面に傷がついたり、ごろごろ感、目やに、充血といった症状が出るようになってきます。症状が強い場合には角膜の傷がにごりとなったり、乱視が強くなって視力が下がることもあります。

10歳くらいまでは、お顔の成長に伴い自然に改善してくる場合も多く、軽度であれば点眼で経過観察をしますが、症状が強い場合には手術を行います。

図2 睫毛内反



ららぽーと和泉で パパ・ママ・キッズ 応援フェスタを 開催しました！



当センターと和泉市が合同で子育て応援イベントを開催し、196 家族が参加してくださいました。

育児・アレルギーなどの相談や、医師・助産師から無痛分娩や妊娠に向けた身体づくりのお話がありました。妊婦体験をしたパパは「これは大変や！色々手伝わなあかな〜」と実感されていましたよ。

医師・看護師体験では、制服に着替えた子どもたちが、満面の笑みでモコちゃんとも一緒に写真を撮っていました。聴診器を首にかけてポーズする姿はカッコよかったですよ！

「この子は母子センターで産まれたんですよ！」「今度は母子センターで産みたいです！」などの声をかけていただき、スタッフも元気ができました。

これからも、皆さまの出産・子育ての不安や疑問が少しでも和らぐよう、お手伝いさせていただきたいと思います。次回をお楽しみに！

(看護部)

和泉市と大阪母子医療センターイベントを開催します！

いずまる
パパ・ママ・キッズ
応援フェスタ **参加無料**

開催日時 2024.6/2 10:00～16:00
場所 ららぽーと和泉2階センターコート

相談コーナー
● 育児相談
● 栄養・アレルギー相談

体験コーナー
● 妊婦体験

キッズコーナー
● パネルシアター
● 医師・看護師体験
● 折り紙

ふだん中々できない体験ができます！

当日セミナー
12:00～ 子ども向け妊婦陣
13:00～ 無痛分娩
14:00～ アレルギー・スキンケアの話
15:00～ 妊娠に向けた健康な身体づくり

協力企業
グリコ 大塚製薬 赤ちゃん本舗

大阪母子医療センター 和泉市健康づくり推進室
イベント運営事務局 平日 9:00～17:30 / TEL:0725-56-1220

コダイ・ロマシ



ライソゾーム病 (LSD) の 拡大新生児マススクリーニング 検査が開始されました



新生児マススクリーニング検査（公費マス）は 1977 年から全国で始まっています。25 種類の赤ちゃんの病気を、早く見つけて早く治療を開始することで、重い障害を防ぎ、命を守ることができます。この度、LSDの拡大新生児マススクリーニング検査（拡大マス）を開始しました。LSDは、細胞の中にある小器官「ライソゾーム」での酵素の働きが足りず、老廃物がたまってしまい、細胞全体の働きが悪くなる病気です。筋肉の力が弱くなる、呼吸がしにくい、心臓の動きが悪くなる、関節が動かしにくい、発達が遅れるなどの様々な症状が出ます。早く治療を開始することで症状が軽減され、治療しなければ命に係わります。LSDには多種類ありますが、乳幼児期から症状が出て、新生児でのマス検査が特に有効である、「ポンペ病」、「ムコ多糖症Ⅰ型」、「ムコ多糖症Ⅱ型」の3種類を今回は調べます。任意の検査で、検査費用は自己負担ですが、公費マスと同時に調べることができますので、是非検査を受けることをお勧めします。

(臨床検査科 位田 忍 / 臨床検査部門 藤田 宏)

子どもたちが描いた 葉っぱと動物でつながる ホスピタルアート



ひというプロジェクトさんご協力のもと、小児棟と小児外来外科系待合室エリア（耳鼻咽喉科や整形外科エリア）に葉っぱとかわいい動物がコラボしたアート作品ができました。小児棟3階～5階の6病棟に入院中の子どもたちとご家族、外来通院中の子どもたち、医療従事者が参加し、アーティストさんが作成された木の葉っぱに思い思いの色を付けました。みんなで描いた個性豊かな葉っぱは全部で265枚。

小児病棟は描かれた葉っぱの思いを小鳥がつなげていけるようにイメージされた壁画デザインになっており、病棟毎に雰囲気が異なる楽しみがあります。小児外来エリアは「めぐる葉っぱとみんなのなかま」をテーマにキリンやトナカイなどのかわいい動物たちが顔をだしています。また、隠れている動物のなかまを見つけられるような工夫もされていて、子どもたちの遊び心をくすぐるアートになっています。一度探してみてください。みんなで作った作品が少しでも通院中、入院中の子どもたちやご家族の楽しみや癒しの空間になっていれば嬉しいです。

（患者支援センター）



RECIPE

医師・栄養士監修

ピーマンとこんにゃくのきんぴら



年中売られているピーマンですが、旬は夏で6～9月です。今回の料理は、にんじんとこんにゃくのきんぴらです。にんじんと合わせることで色鮮やかになり、こんにゃくを入れることでエネルギーを抑えつつ、ボリュームのある副菜に仕上がります。

（栄養管理室）

実は夏が旬！

ピーマンの豆知識

ビタミンC、β-カロテンが豊富 ピーマンは、抗酸化作用のあるビタミンCやβ-カロテンが多く含まれています。

ハリのあるものが新鮮 皮の部分は、緑色が鮮やかで光っているもの、へたは、ハリがありみずみずしく、重みのあるものを選びましょう。

苦みを抑えたいときは縦切り 繊維に沿って縦切りにすると、苦みが抑えられます。横切りにすると、苦みはでやすくなりますが、熱が通りやすく、やわらかく仕上がります。

材料（2人分）

ピーマン	2個（70g）
にんじん	1/4本（50g）
こんにゃく	20g
ごま油	小さじ1/2杯（2g）
砂糖	小さじ1と1/3杯（4g）
しょうゆ	小さじ1と1/3杯（8g）



大阪母子医療センターの食育レシピ
「こどもの心と体の成長・発達により食事Ⅱ 幼児期編」
P.60に掲載されています

1 下ごしらえ ピーマン・にんじん・こんにゃくはせん切りにする。こんにゃくは熱湯で下ゆです。

2 炒める フライパンにごま油を熱し、にんじんとこんにゃくを炒める。全体に油がなじんだら、ピーマンを加えてさらに炒め、砂糖、しょうゆを加えて水分がなくなるまで炒め煮にする。

地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪母子医療センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

電話 0725-56-1220

FAX 0725-56-5682

<https://www.wch.opho.jp/>

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します

基本方針

- ・周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します
- ・患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います
- ・地域と連携して母子保健を充実させます
- ・母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます